

韓国・朝鮮地域研究のための基本文献

<事典>

○伊藤 亜人・大村 益夫ほか (共編)『[新版 韓国 朝鮮を知る事典](#)』平凡社、2014 年

★図書館では [旧版 \(新訂増補：2000 年発行\)](#) も所蔵

韓国・朝鮮に関する本格的な総合事典の最新版。定評のあった旧版と比べて、北朝鮮社会に関する情報も充実している。

<入門・概説書>

○伊藤亜人編『[もっと知りたい韓国 \(1\) \(2\)](#)』弘文堂、1997 年

韓国文化・社会に関する基礎的な知識を得る上で必須の本。第 1 巻は、民族の歴史や文化、伝統生活に関する解説、第 2 巻は、変貌の激しい韓国社会の様相を、政治・経済の領域も加えた生活文化や地域社会の変容に焦点をあて、各分野の第一線の研究者が共同で執筆している。

○秋月望、丹羽泉共編『[韓国百科 第二版](#)』大修館書店、2002 年

韓国の政治・経済・社会・歴史などの基礎情報のほか、人々の考え方や習慣、日本との関連事項などをテーマとして取り上げ紹介。概説編、テーマ編、データ編の 3 部構成で、ハンディにまとまっている。

○伊豆見 元、遠藤 哲也、小此木 政夫ほか著『[北朝鮮・その実像と軌跡](#)』高文研、1998 年

北朝鮮の政治・経済・軍事・対外関係に関する専門家の論考 12 本で構成。90 年代が中心の記述となっているが、第一線の専門家による本格的で総合的な分析となっており、現代の北朝鮮を理解する上でも役に立つ本となっている。

○平岩俊司『[北朝鮮—変貌を続ける独裁国家](#)』中央公論新社、2013 年

北朝鮮と東アジアの国際政治を専門とする著者による最新の北朝鮮情勢を分析した本。建国から現在まで、三代にわたる指導者の軌跡からこの国の実像を浮き彫りにしている。

○宮嶋博史『[両班\(ヤンバン\)—李朝社会の特権階層](#)』中央公論社、1995 年

社会経済史の視点から、両班の形成過程と儒教的伝統の実態を描いた本。両班という特権的知識人階層に焦点をあてることを通して、中国とは異なった独自の特質をもつ朝鮮社会がいかに形成されたかよく理解できる。

<専門・研究書>

○イザベラ・バード著、(時岡 敬子訳)『[朝鮮紀行～英国婦人の見た李朝末期](#)』講談社、1998年

★図書館では [単行本 \(図書出版社, 1995.5年発行\)](#) も所蔵

英国の女性の旅行家、イザベラ・バードが、1894年から1897年にかけて、四度にわたり朝鮮を旅したときの紀行文。百年まえの朝鮮の実情を克明かつ忠実に伝える貴重な記録。日本に関する『[日本奥地紀行](#)』の著者としても有名。

○ロジャー・L. ジャネリ、任 敦姫共著 (金美栄ほか訳)『[祖先祭祀と韓国社会 \(Academic Series NEW ASIA\)](#)』第一書房、1993年

1970年代に韓国の農村に住み込み、生活の中に息づく「祖先」と村人の交流の姿を丹念に記録した二人の人類学者のフィールドワークにもとづく優れたモノグラフである。

○ステファン・ハガード、マーカス・ノーランド共著 (杉原ひろみ他訳)『[北朝鮮 飢餓の政治経済学](#)』中央公論新社、2009年

政治経済学の分野における北朝鮮分析の専門家による本。データに基づいた緻密な分析が行われており、この国で起きている飢餓問題の原因やその推移を様々な角度から分析を試みている。

(2014年2月 丹羽泉)